令和３年度霞ヶ浦学講座実践編「里山保全活動から学ぼう！」実施報告案

実施日時：令和３年 11 月３日（水）10:00－15:30　　参加者数：16 名

内容：午前　講演

「里山保全のための活動事例～『宍塚の里山』を 100 年先の子ども達へ～」

（場所：霞ケ浦環境科学センター多目的ホール）

午後　フィールドワーク（場所：土浦市宍塚の里山）

講師：佐々木哲美氏（認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会副理事長）

フィールドワーク案内サポート：同会会員４名

【実施概要】

午前は、認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会副理事長佐々木哲美氏を講師に迎え、里山保全活動、活動の課題などについてお話を伺いました。同会は土浦市宍塚で、30 年以上にわたって里山保全活動を実施している団体になります。

午後は、同会の活動フィールドである土浦市宍塚の里山に赴き、活動場所、宍塚大池などを見学しました。

午前：講演「里山保全のための活動事例～『宍塚の里山』を 100 年先の子ども達へ～」

【講演概要】

＜宍塚の里山＞

宍塚の里山は、土浦市宍塚側 100ha、つくば市側 80ha と合わせて 180ha になり、東京から筑波山麓までの中で最大級の里山となり、環境省「生物多様性保全上重要な里山（重要里地里山）」に選定されています。里山の中央にある「ため池」は、広さ 3.5ha のため池で「ため池百選」（農林水産省）に選定されています。生物種ではチョウ・トンボは全国の約 1/4 種（チョウ 71 種、トンボ 59 種）、植物は県内で見られる種の 1/3 種（約 870 種）、野鳥 159 種が確認されています。

また、はるか昔から人々の営みがあり、ため池、雑木林、田畑の組み合わせにより支えられてきた里山の暮らし・文化が維持・保全されています。

＜認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会の活動＞

認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会の保全活動は、「調査⇒保全⇒教育・活用」のプロセスが基本となります。最初のステップとして里山の文化・歴史の聴取調査や自然環境調査を行い、保全活動の指針・土台を明らかにしています。調査結果に基づき、保全計画・目標を立て、里山の歴史・豊かな自然環境を未来へ引き継ぐために再生、保全活動を実施しています。そして、里山を舞台に自然環境、生態系、生物の多様性の大切さを、年齢を問わず学び、体験する、心を癒される場を創出しています。

具体的には宍塚大池周辺の状況、田畑、林の利用方法、行事、衣食住、娯楽、その他の生活の様子を深く知るために、農家一軒一軒を訪ねて話を聞いて歩き、里山保全の基礎資料として「聞き書き」をまとめました。この活動を通した地元との交流や聞き取った内容が活動の土台となっています。

自然環境調査では、専門家と一緒に調査活動を行い、より深く正確に知り、調査結果を保全活動に活かしています。野鳥、サシバ、カエル、哺乳類、水質、植生、昆虫、クモ、きのこ類など多くの調査を行ってきました。

＜各環境の課題と対策＞

自然環境調査の結果をもとに問題を把握、課題を設定し、対策・活動を実施しており、保全活動を実施している面積は 20ha 以上になります。

具体的には、耕作放棄されていた谷津田を、生き物と共生した田んぼに再生しています。

フィールド（環境要素）	課題	対策・活動
雑木林・植林地	高木化や林床に光が射さない。	明るい森づくり 常緑広葉樹の伐採
竹林	竹林の拡大は、生物多様性を失うばかりか、土壌の破壊、保水能力の低下を招く。	竹林の拡大を止める。
池・小川	外来生物の増殖による生態系の破壊の危機	外来生物の捕獲 在来希少種の保護
谷津田・湿地・畑	耕作放棄地の拡大	生き物と共生した田んぼや畑の再生 湿地としての保全管理

表１各環境の課題と対策（配布資料を元に作成）

＜教育の場として＞

里山は「教育」の場としても大きな役割を担っています。「子ども探偵団」、「観察会」、「里山学習会」など子どもから大人まで誰もが参加できる教育活動を行っています。

継続的な里山の保全に向けては多様な主体の連携がカギとなります。宍塚の自然と歴史の会の活動は多岐にわたりますが、「対話」を大切にすることで、地元の方々や行政、学校、企業、研究機関等とも関係を育むことができ、連携・協働した総合的な里山保全活動に取り組むことができてきたと思います。

＜里山保全の課題・展望＞

里山は、水や空気の保全、動植物の生息場所など公益的な機能を有しています。一方、土浦市宍塚近郊もアパート、太陽光発電などが増えるなど開発が進み、里山空間は減ってきています。保全に係る法規制は十分とは言えず、いかに土地所有者をはじめ多くの方々に里山の開発などの現状や里山の魅力・価値・重要性を伝え、理解してもらうかが課題です。

また、里山保全、環境保全活動は環境、生態系を守るうえでも重要です。自分事として捉え、身近なところから取り組むことが鍵になると思います。

里山保全を続けていく上では、「場所の確保（土地）」、「維持管理（労働力）」、「利活用の主体（マネジメント）」の課題があると思います。この 3 つの課題を解決するには、土地所有者、行政、市民団体が、いかに win-win の関係を保ちながら、保全に向けてのしくみを制度化していくかが重要に思います。

宍塚の里山については、将来的には、以下のような方向になれば良いのではないかと思っています。

・法規制して公有地化することで土地所有者の利益も守る。
・維持管理は公社設立や指定管理者制度にて運営し、雇用の場を提供する。
・利用方法は学識経験者など多くの方が関わって検討・決定し、里山は学校教育、市民団体、一般市民などの活動の場として利用できる。

午後：フィールドワーク

【フィールドワーク概要】

　土浦市宍塚の里山（認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会の活動フィールド）を見学しました。

主な見学場所

・ふれあい農園

・宍塚大池

・竹の維持管理場所

・ナラ枯れ対策の現場

里山情報館前駐車場を出発

里山手前の案内看板

本年度より維持管理開始した竹藪

古民家裏の看板

オニバス、ジュンサイなどを育てています。

宍塚大池

数年かけて伐採された竹藪

ナラ枯れ対策の話を伺っています。

（文責：小川）

所感

　多岐にわたる里山保全活動についてお話を伺うことができ、活動を続けていくうえでのヒントについても学習することができました。フィールドワークでは手入れが行われている里山を見ると同時に秋の自然を堪能することができました。